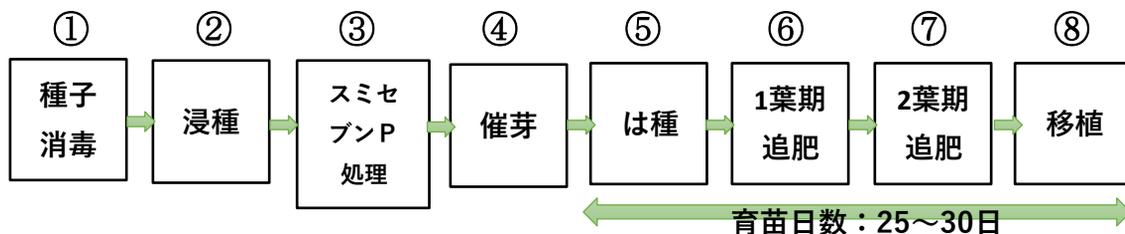


生産コスト低減の方法 【水稲 園芸 畑作 畜産】

水稲 密播中苗で資材コスト削減

密播中苗とは、1箱当たりのは種量を慣行の2倍(乾籾200g)にし、移植時に細かく掻き取ることで、10a当たりの使用箱数を削減する省力化技術です。近年、胆振管内で取り組み面積が増加しています。

作業体系



③スミセブンPは15～24時間処理。浸種期間の最終日に処理

⑤は種量は乾籾200g(催芽籾で約250g(400ml))

⑥、⑦追肥窒素量は慣行の2倍にする

⑧移植時の苗素質は、草丈10～12cm、葉数3.1～3.5葉

植付け本数が4～5本になるように掻き取り量を設定(表 参考)

表 移植機設定と育苗箱数(実績)

メーカー・型式	イセキ・NP80	クボタ・EP8D	クボタ・NW8S	ヤンマー・YR8D
横送回数(回)	24	26	30	26
※苗取量(mm) (苗取量レバー、スイッチ)	10 (標準から1段下)	9 (標準から3～4段下)	10～11 (標準から3つ下げる)	10
栽植密度(株/坪)	80～85	80	80	80
育苗箱数(箱/10a)	20～22	18	17～18	18～19

※苗の水分やマット強度の違いにより縦苗取量が変わるため、必ず試し植えを行い、欠株や植付本数過多をチェックする。



写真 種時(左：中苗 右：密播中苗)



写真 移植時(左：中苗 右：密播中苗)

水稲 密播中苗で資材コスト削減

表 10a当たり資材使用量と資材費の比較
(価格はJAとまこまい広域の販売価格R4.9月時点を使用)

資材名	中苗(慣行)	密播中苗	慣行比
	34箱/10a	18箱/10a	
種子	3.4kg	3.6kg	↑
スミセブンP	—	24ml	↑
パールマットG (培土)	61.2kg	32.4kg	↓
粒状覆土	48.6kg	25.7kg	↓
バズ顆粒水和剤 (箱施用剤)	17g	9g	↓
NP57(追肥)×2回	476g	504g	↑
タチガレエースM液剤	34ml	18ml	↓
合計資材費(慣行対比)		66%	

種子代は増加するが、・培土・覆土・箱施用剤のコストが大きく下がる

～失敗しないためのポイント～

- ・ 中途半端な種量は厳禁！
- ・ 覆土の持ち上がりが多いため粒状覆土を使用
- ・ 育苗時の立ち枯れ病に注意
- ・ 移植時の葉齢は必ず守る (3.1葉以上で移植)
- ・ 移植は5日間の平均気温が12.0℃以上になってから
- ・ 植付け本数が4～5本になっているか確認
- ・ 植付け深さは1.5cm～2.0cmを厳守
- ・ 浮き苗防止のため移植直後の入水はゆっくり行う